

焼津市歴史民俗資料館

Yaizu City Museum of History and Folklore

Museum Letter



資料館だより
118号

焼津と八雲と私

八雲さんは私を導いてくれた人

「八雲さんは私を導いてくれた人なんです」そう語るのは、常葉大学外国語学部講師であり、元焼津小泉八雲記念館学芸員である那須野絢子さん。7月19日より焼津市歴史民俗資料館・焼津小泉八雲記念館が開館以来初めて合同開催する特別展『ケルティック幻譚：水木しげると小泉八雲が描いた妖精たち』の監修を行っていただきました。今回は地元焼津ゆかりの文豪であり、この秋からは妻「小泉セツ」さんがモデルのドラマで注目を浴びている、「小泉八雲」についてご自身のお話も交えながら語っていただきます。

—焼津市出身の那須野さんですが、小泉八雲との出会いはいつだったのでしょうか？

焼津市の小学生は、必ず授業で「小泉八雲」を習いますよね。

でも、私が八雲さんに最初に会ったのは、家族でよく行く定食屋さんだったんです。定食屋さんの本棚に『八雲の海』という漫画が置いてあり、ご飯を待つ間に夢中で読んでいました。

—そのころから、八雲さんに注目し、文学の道に進んだんですね！

いえ、実はそのあとしばらく八雲さんのことは忘れていたんです。私は、ファンタジー、特に妖精が好きで、文学の道に進んだんです。大学時代も妖精研究者井村君江氏の『妖精学入門』などを読んで勉強していたのですが、卒業論文のテーマを考えている時に、研究文献の中でイギリスの妖精作家として「ラフカディオ・ハーン」の名前を見つけたんです。「ラフカディオ・ハーン」はご存じの通り、「小泉八雲」の本名です。「えっ八雲って妖精作家なの？」と驚いたのが、八雲さんとの再会でした。

その後、就職をして、また八雲と離れてしまうんですが、平成18年、焼津小泉八雲記念館が開館するにあたって学芸員を募集していると聞いて、働くことになりました。これが3度目の再会で、もう八雲さんに導かれたのだと思いました。

—八雲の作品で読んでいただきたいおすすめ作品はなんですか？

「雪女」です。

「雪女」は、現代の人が読んでも面白いのですが、驚くことはないと思います。しかし、明治時代の方が読んだら、きっと驚いたと思うんです。なぜなら、今までの日本の昔話に「人間」と「動物」の婚姻譚はあっても、「人間」と「妖怪・妖精」との婚姻譚はないからです。斬新だったと思います。

私は、「雪女」はケルト文化を知っている八雲だから書けた作品であり、八雲オリジナル作品であると考えます。また「雪女」は「妖精」だと私は思っています。

那須野 絢子氏

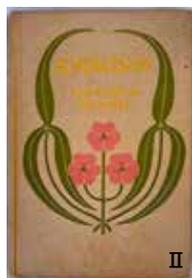
静岡県焼津市出身

常葉大学外国語学部 講師

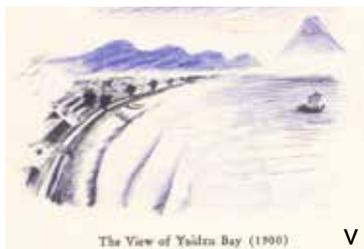
元焼津小泉八雲記念館学芸員

—そういわれてみれば確かに…「雪女」をそういった目線で見てみるとまた違った発見があるかもですね！
では、那須野さんにとって八雲さんとは…

最初に述べたように、今の私があるのは八雲さんのおかげで、八雲さんは私を導いてくれた人なんです。また、八雲さんのおかげで自分の生まれ育った「焼津」を改めて深く知る機会となりました。正直、焼津で生活を送っていく中で、「何もない」町だとずっと思っていたのですが、八雲さんを知り、深く付き合っていく上で、改めて、「焼津」の町の良さを知ることが出来たと思っています。



- I 社団法人 焼津青年会議所 発行『八雲の海』
- II 『怪談』初版本（焼津小泉八雲記念館蔵）
- III 小泉八雲秘稿画本『妖魔詩話』より「雪女」（小泉八雲筆）（焼津小泉八雲記念館蔵）
- IV 小泉八雲写真集《焼津小泉八雲記念館蔵》
- V 『Re-Echo』より「焼津海岸線」「The view of the yaizu bay (1900)」(小泉八雲筆)（焼津小泉八雲記念館蔵）
- VI 石津浜



—確かに、改めて八雲さんの目線から「焼津」を見ることにより今見ているものは違った「焼津」を発見できるかもしれませんね。では、最後に今回の特別展についてメッセージをお願い致します。

妖精というと日本ではアニメのキャラクターのイメージが強いと思います。しかし妖精はキリスト教以前からのヨーロッパ全土に広がったある種の信仰だったんです。時代の中で、妖精たちが影を落とすことになるのですが、色々な文学を媒体として、今の時代にまで息づいています。こうした歴史の力、文学の力も知っていただけたらと思います。

また、『ゲゲゲの鬼太郎』で有名な水木しげるさんも実は妖精のことを研究しており、妖精の絵もたくさん描かれています。今回の特別展では、水木しげるさんの妖精画も展示しているので、妖精文学と妖精画を通して「妖精」とは何かを知っていただきたいです。

—ありがとうございました。

那須野さんは本当に八雲さんが好きなんだな～と感じるインタビューでした。

そんな八雲大好き那須野さんに監修いただいた、特別展「ケルティック幻譚：水木しげると小泉八雲が描く妖精たち」が焼津市歴史民俗資料館・焼津小泉八雲記念館にて開催中です。ぜひ2人が描いた妖精をご堪能ください

開催日：令和7年7月19日(土)から9月23日(火)

時間：9時～17時

入場料：一部有料（一般）100円・中学生以下無料

場所：焼津市歴史民俗資料館・焼津小泉八雲記念館

ウォーウィック・ゴープル
『妖精詩の本』
(うつのみや妖精ミュージアム蔵)

学芸員の推し

Vol.7



今回の学芸員の推しを担当するのは…

今年度4月に当館に赴任してきたばかりの新人。

地元はもちろん焼津！

焼津っ子の種石 倫也学芸員です。

すでに焼津市歴史民俗資料館ではマスコットキャラクター的存在に！そんな種石学芸員の推しは…

山口乙吉さん

なんとあの、山口乙吉さんを推しとは、やはり焼津っ子！存分に推しの魅力を語ってください！

山口乙吉とは、明治の文豪で『怪談』の著者である小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が焼津に滞在する際に宿泊していた家の家主です。

乙吉は、八雲が心から信頼していた人の一人で、この乙吉がいたことも八雲が焼津に何度も長期滞在する理由の一つになっていたともいわれています。

実はこの乙吉、どこかの有名な家の出身であると

か、何かの分野で特別な功績を挙げたなどという人物ではなく、人柄の良い普通の魚屋さんだったのです。

八雲の、民衆の中に入って日本を観察したいという気持ちがあったという背景こそありますが、それでも宿泊する家ともなれば、誰でもどこでも良かったわけではなかったはず。素直で優しいと評された焼津の人々の中でもとりわけ八雲の信頼を得ていた普通の魚屋さん、富や名声などではなく人柄という要素で八雲が強く信頼するに至るほどの人格者であることは、推して知るべし、ですね。

このような人格者が自分の地元でいたという事実をととても誇らしく思います。また同時に、同じ焼津出身の私としては、八雲や乙吉に失望されないように、私自身も誠実で優しくあらねばならない、と自戒の念が自然と湧いてきます。

確かに…こんなにも八雲さんに慕われた乙吉さん。私も焼津出身の一人として、ファンになりました！

9月末からは小泉八雲の妻セツさんをモデルとしたドラマも始まるということで、乙吉さんをモデルとした人物が出てくるとうれしいですね。みなさん楽しみにしましょう！



山口乙吉の写真
(焼津小泉八雲記念館蔵)

やまじんのお部屋



こいずみやくも
今回は特別編！小泉八雲さんを紹介するよ！

学芸員の推しでも登場した小泉八雲さん。元の名をパトリック・ラフカディオ・ハーンさん。お父さんが、アイルランド人、お母さんがギリシャ人なんだ！

明治時代、今から約130年前ぐらいに日本にやってきて、日本のこわいお話や、神様のお話、地域のお祭りなどを聞いたり、見たりして、それを本にして海外で紹介した文豪さんだよ！みんながよく知っている、妖怪のお話、「雪女」「ろくろ首」「耳なし芳一」などを英語で紹介したんだ。

そんな八雲さんはなんとここ焼津が大好きで、亡くなるその年まで夏休みに焼津に遊びに来ていたんだよ！焼津の海、焼津の人たちが大好きだったんだ。焼津では息子の一雄さんと一緒に水泳やお散歩なんかを楽しんだりして、焼津で体験した事や、聞いたことを本にしているんだ！みんなも一度読んで見てね♪



【発行・問合せ】

焼津市生きがい交流部文化振興課 資料館担当
〒425-0071 静岡県焼津市三ヶ名1550
☎054-629-6847
表紙写真：八雲も訪れた熊野神社